

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和3年度病害虫発生予報第10号(1月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和3年度病害虫発生予報第10号(1月)

令和3年12月27日
愛知県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は平年並が多い	± ±~-
	葉かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は平年並が多い	± ±~-
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない 1月の日照時間は平年並が多い	- ±~-
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は平年並が多い	± ±~-
	うどんこ病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キュウリ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は平年並が多い	± ±～-
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並 1月の日照時間は平年並が多い	± ±～-
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[ナス、キュウリ・うどんこ病]

ジーファイン水和剤やピカットフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

トマトでは、12月上旬の巡回調査でコナジラミ類の発生量が過去10年で3番目に多く、12月下旬の巡回調査で黄化葉巻病の発病株率が過去10年で2番目に多い状況です。トマト黄化葉巻病はタバココナジラミによって病原ウイルス(TYLCV)が媒介されます。開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を展張し成虫の侵入を防ぐ、黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し成虫を捕殺する等、コナジラミ類の防除を徹底し、発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。薬剤防除の際は同系統の薬剤を連続して使用するのとは避け、気門封鎖剤も活用しましょう。また、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルス(TOCV)を媒介するので、同様に防除を徹底しましょう。トマトすすかび病の発生量が多いほ場があります。多湿条件下で多発するので、湿度管理を適切に行いましょう。農薬は葉裏にもかかるよう、丁寧に散布しましょう。

イチゴのハダニ類の発生量は平年並ですが、多発しているほ場もあります。春先、気温が高くなると多発しやすくなります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は早めに防除しましょう。訪花昆虫や天敵を導入している、あるいは今後導入を予定しているほ場では、それらへの影響も考えて農薬を選定してください。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス:<http://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台12月23日発表)

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は気温がかなり低くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率80%です。2週目は、平年並または低い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 50% 平年並 : 30% 高い : 20%

〔降水量〕 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%

〔日照時間〕 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%